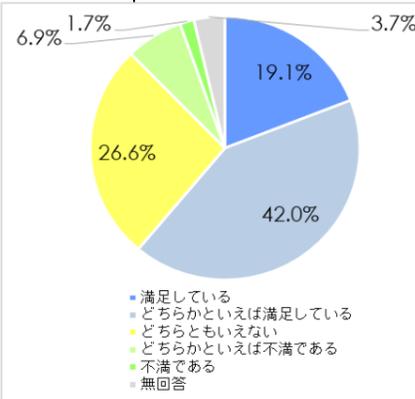
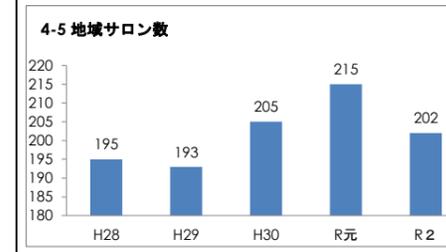
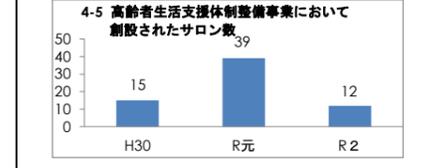
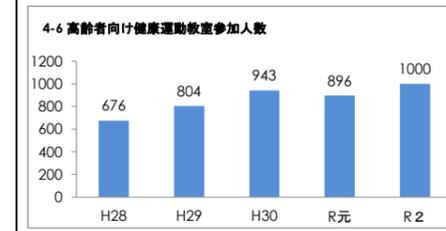
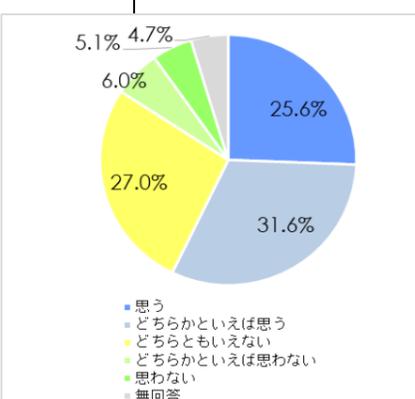
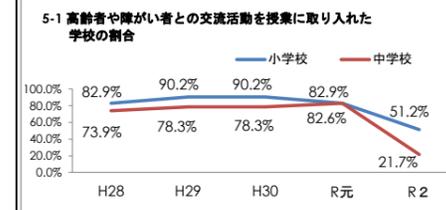
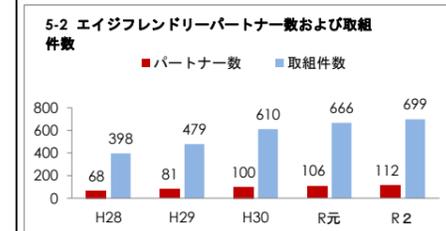
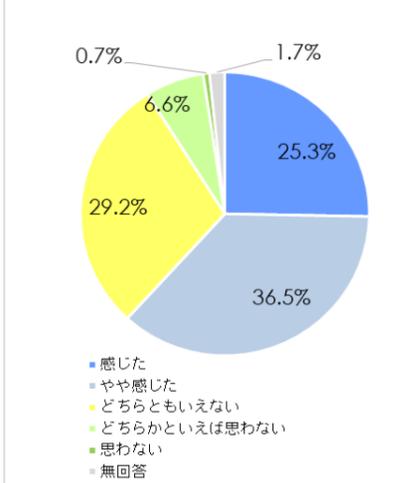
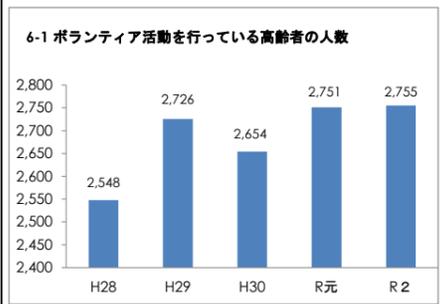
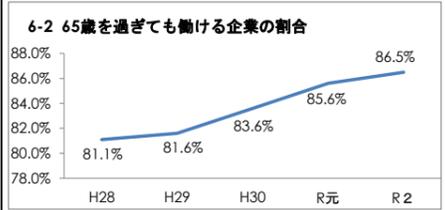
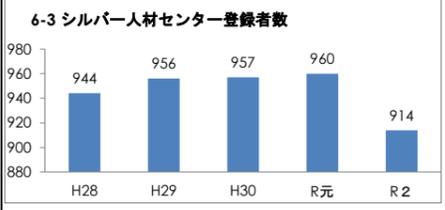
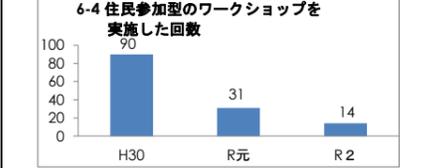
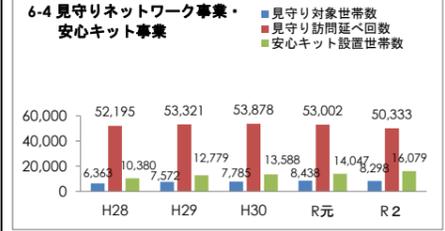
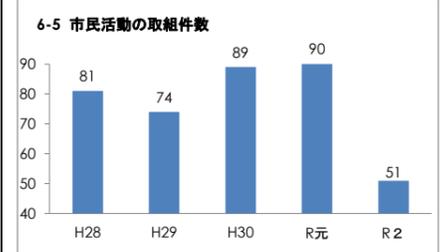


目標	基本目標	意識指標(主観的指標) / 令和2年度市民意識調査結果	番号	指標	照会先	エイジフレンドリー指標の推移	令和2年度実績値 (H28～R2)	現状	目標毎の課題等													
1	安心安全で誰もが集える屋外スペースと建物、施設の整備を進めます	近所を安心して外出できると感じている高齢者の割合 78.2% 【問12】 普段生活する中で、近所を安心して外出できると思いますか	1-1	秋田市公共施設のバリアフリー化率	秋田県健康福祉部 地域・家庭福祉課	<p>1-1 秋田市公共施設のバリアフリー化率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>H28</td><td>20.2%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>20.6%</td></tr> <tr><td>H30</td><td>21.5%</td></tr> <tr><td>R元</td><td>22.6%</td></tr> </table>	年度	割合	H28	20.2%	H29	20.6%	H30	21.5%	R元	22.6%	令和2年4月1日現在 バリアフリー化率 ・56施設/248施設 ・22.6%	※令和3年4月1日現在の実績値については、10月末確定する見込(県担当者から情報提供予定)	市民意識調査結果で、意識指標である「近所を安心して外出できると回答した高齢者」は8割近い結果となり、高い水準となっている。 施設や公園のバリアフリー化等を含む整備については、計画的に進められており、町内会を通じたLED灯具への交換や電線共同溝整備なども、安心安全な環境整備について成果をあげている。 また、安心安全の視点でハード面が整う一方で、高齢者の特殊詐欺被害件数が増えるなど、高齢者の潜在的な課題への対応が今後さらに求められている。 高齢者にやさしい都市の実現には、公的な建造物等の整備に伴い、高齢者の個人差がある環境の課題解決が進むことも必要ではないかと考える。			
			年度	割合																		
			H28	20.2%																		
H29	20.6%																					
H30	21.5%																					
R元	22.6%																					
1-2	高齢者の交通事故発生状況	秋田県警本部	<p>1-2 高齢者の交通事故発生状況(負傷者数)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>負傷者数</th><th>負傷者数のうちの高齢者数</th></tr> <tr><td>H28</td><td>1,199</td><td>201</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,099</td><td>167</td></tr> <tr><td>H30</td><td>947</td><td>146</td></tr> <tr><td>R元</td><td>796</td><td>128</td></tr> <tr><td>R2</td><td>712</td><td>124</td></tr> </table>	年度	負傷者数	負傷者数のうちの高齢者数	H28	1,199	201	H29	1,099	167	H30	947	146	R元	796	128	R2	712	124	令和2年 (R2.1.1～R2.12.31) ※高速道路を除く ・死者数 全数 9人、うち高齢者 6人 ・負傷者数 全数 712人、うち高齢者 124人
年度	負傷者数	負傷者数のうちの高齢者数																				
H28	1,199	201																				
H29	1,099	167																				
H30	947	146																				
R元	796	128																				
R2	712	124																				
1-3	特殊詐欺被害件数	秋田県警本部	<p>1-3 高齢者の特殊詐欺被害件数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>件数</th></tr> <tr><td>H28</td><td>21</td></tr> <tr><td>H29</td><td>24</td></tr> <tr><td>H30</td><td>11</td></tr> <tr><td>R元</td><td>24</td></tr> <tr><td>R2</td><td>29</td></tr> </table>	年度	件数	H28	21	H29	24	H30	11	R元	24	R2	29	令和2年 (R2.1.1～R2.12.31) 特殊詐欺被害の認知状況 41件 うち高齢者 29件						
年度	件数																					
H28	21																					
H29	24																					
H30	11																					
R元	24																					
R2	29																					
2	交通機関の利便性の向上をはかります	バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者の割合 47.8% 【問11】 普段生活する中で、バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思いますか	2-1	コインバス資格証明書交付率	長寿福祉課	<p>2-1 コインバス資格証明書交付率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>H28</td><td>60.80%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>62.03%</td></tr> <tr><td>H30</td><td>63.76%</td></tr> <tr><td>R元</td><td>64.76%</td></tr> <tr><td>R2</td><td>64.65%</td></tr> </table>	年度	割合	H28	60.80%	H29	62.03%	H30	63.76%	R元	64.76%	R2	64.65%	令和2年度 64.65%	市民意識調査結果で、意識指標である「バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者」は5割近くとなっており、居住地の環境により認識は異なっているものと考えている。 泉・外旭川駅の開業と路線バスの乗り入れにより、新たな交通結節点として公共交通機能の充実や、高齢者コインバス対象年齢の65歳への引き下げにより、公共交通利用による高齢者の外出の促進は図られ、ユニバーサルデザインタクシーの導入率の上昇等を含め、一定の改善があったと捉えている。 しかしながら、バス路線の維持確保や郊外部における持続可能な移動手段の確保という大きな課題がある。 今後予定されている交通系ICカード導入に際しての、高齢者への丁寧な対応が求められることに加え、バス停の改善やスムーズに乗降できるように工夫等も必要である。		
			年度	割合																		
			H28	60.80%																		
H29	62.03%																					
H30	63.76%																					
R元	64.76%																					
R2	64.65%																					
2-2	ノンステップバス、低床バス導入状況	秋田中央交通(株)	<p>2-2 ノンステップバス・低床バス導入率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>H28</td><td>40.2%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>45.4%</td></tr> <tr><td>H30</td><td>53.7%</td></tr> <tr><td>R元</td><td>63.8%</td></tr> <tr><td>R2</td><td>59.4%</td></tr> </table>	年度	割合	H28	40.2%	H29	45.4%	H30	53.7%	R元	63.8%	R2	59.4%	令和2年度 秋田中央交通 保有率 59.4% (170台中101台) ・ノンステップバス49台 ・低床バス52台 合計101台 ※ノンステップ、低床バスについては、交通バリアフリー法適合車両のみ。						
年度	割合																					
H28	40.2%																					
H29	45.4%																					
H30	53.7%																					
R元	63.8%																					
R2	59.4%																					
2-3	ユニバーサルデザインタクシー福祉タクシー導入状況	(一社)秋田県ハイヤー協会	<p>2-3 ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー導入率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>H28</td><td>7.75%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>10.60%</td></tr> <tr><td>H30</td><td>10.85%</td></tr> <tr><td>R元</td><td>10.37%</td></tr> <tr><td>R2</td><td>13.87%</td></tr> </table>	年度	割合	H28	7.75%	H29	10.60%	H30	10.85%	R元	10.37%	R2	13.87%	令和2年度 ・市内タクシー事業者(14事業者)のユニバーサルデザインタクシー、福祉タクシー保有率 13.87% (476両中66両) 【内訳】 ユニバーサルデザインタクシー 6事業者26両 福祉タクシー 4事業者40両						
年度	割合																					
H28	7.75%																					
H29	10.60%																					
H30	10.85%																					
R元	10.37%																					
R2	13.87%																					

目標	基本目標	意識指標(主観的指標) / 令和2年度市民意識調査結果	番号	指標	照会先	エイジフレンドリー指標の推移	令和2年度実績値 (H28～R2)	現状	目標毎の課題等
3	高齢者の住環境を整備します	現在の住環境に満足している高齢者の割合 48.8% 【問15】 あなたは、現在お住まいの住環境について、満足していますか。	3-1	高齢者世帯のうち高齢者等の設備(バリアフリー化)の設置住宅の割合	住宅・土地統計資料 ※市住宅整備課ホームページより確認 「秋田市住生活基本計画」		平成30年住宅・土地統計調査 ・バリアフリー化率 42.0% ※65歳以上の世帯員のある主世帯総数58,730世帯のうち、一定のバリアフリー化 24,640世帯	※平成30年住宅・土地統計調査	市民意識調査結果では、意識指標の「現在の住環境に満足している高齢者の割合」が約5割と高齢者の住環境の個人差が伺える。 住宅改修件数が減少し、サービス付き高齢者用住宅戸数が増加してきており、高齢者の住環境の変化が伺える。 多様な既存施設ほか現制度のさらなる周知なども必要ではないかと考えるほか、耐震化をはじめとする各種制度を引き続き利用の促進を図っていく必要がある。リフォーム事業については、利用者の減少により制度の見直しが必要と担当課で捉えていることから、見直し後の対応が必要である。 利用状況が好調との住宅整備課の多世帯同居、近居推進事業についても、さらなる周知を図り高齢者の孤立防止の推進が必要であると思われる。 また、住宅火災による高齢者の死亡を抑制する取組が課題と捉え、予防啓発と火災報知器設置についての周知や講習などの積極的な取組が必要である。
			3-2	介護保険制度における住宅改修件数	介護保険課	3-3 介護保険制度における住宅改修件数 	令和2年度 656件	介護保険制度における住宅改修件数は、前年度に比べ、微増。	
			3-3	サービス付き高齢者向け住宅戸数	一般社団法人高齢者住宅協会 ※ホームページより確認	3-4 サービス付き高齢者向け住宅戸数 	令和2年度末 ・29件 ・747戸	サービス付き高齢者向け住宅戸数は、横ばいである。	
4	高齢者の社会参加を図ります	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合 61.1% 【問27】 普段生活する中で、余暇の過ごし方について満足していますか	4-1	過去一年以内に趣味・スポーツ・文化・生涯学習などの社会活動に参加した高齢者の割合	長寿福祉課	過去1年以内に何らかの社会活動に参加した65歳以上の高齢者 	23.9% ※令和2年度秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査(問33)から65歳以上の割合	コロナ禍ということもあり、前回調査時よりも減少した。	市民意識調査結果で、意識指標の「余暇の過ごし方に満足している高齢者」は6割を超えており、いきがいくりを目的に、現状に合わせた新たなスタイルの交流の場の創出が必要と考える。 生きがいの創出につながる社会参加について、過去1年で「社会活動へ参加した」人は23.9%と前回調査時より減少している。地域活動への参加については約5割と、個人差があると捉えており、前回調査時より参加している人はわずかに増えている状況である。 また、社会人向け講座数は、感染症の影響前から減少している。 高齢者の社会参加を図るため、各課で行われている取組を連携して実施するなどの工夫が必要ではないかと考える。
			4-2	地域活動(地域での自治活動や市民活動)に参加している人の割合	地域福祉推進室	町内会等の自治活動 42.2% 老人クラブ、婦人会等 9.7% 参加している、50.4% 参加していない、46.4% 無回答、3.2% 【参考】 平成25年度調査結果 参加している 49.3%	地域福祉計画の策定年度の前年度に行っている市民意識調査結果に基づく数値。平成29年度の実施値。 100%-(参加していない46.4%+無回答3.2%)=50.4%	※5年毎の調査のため、実績は平成29年度	
			4-3	大学で社会人向けに開催されている講座数	※県内8大学(短期大学含む)	4-3 社会人向け大学講座数 	令和2年度 秋田市内8大学の公開講座開催数 60件 ・秋田大学(20) ・秋田県立大学(3) ・国際教養大学(17) ・ノースアジア大学(7) ・秋田公立美術大学(13) ・日本赤十字秋田看護大学(0) ・聖園学園短期大学(0) ・聖霊女子短期大学(0)	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3大学では講座を開催せず、他の大学においても講座数が減少し、全体では大幅に減少した。	

目標	基本目標	意識指標(主観的指標) / 令和2年度市民意識調査結果	番号	指標	照会先	エイジフレンドリー指標の推移	令和2年度実績値 (H28～R2)	現状	目標毎の課題等
4	高齢者の社会参加を図ります	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合 61.1% 【問27】 普段生活する中で、余暇の過ごし方について満足していますか 	4-4	1日20分以上の運動を週1回以上実施している人の割合	保健総務課	【参考】平成21年度 ・16歳～24歳 53.9% ・25歳～44歳 52.0% ・45歳～64歳 53.5%	平成28年度 ・16歳～24歳 47.8% ・25歳～44歳 25.8% ・45歳～64歳 37.0% ・65歳以上 50.7%	※7年毎の調査のため、実績は平成28年度数値	(前ページ基本目標4の続き) 健康増進につながる、運動等を通じた社会参加については、仕事や子育て等で多忙な年代で実施率が低い傾向があるが、65歳以上の高齢者は約5割が取り組んでいる。 地域サロン、高齢者対応サロン数ともに増加していたが、新規サロン数はコロナ禍の影響を受けた。 感染症により制限のある中で、参加可能な高齢者向け健康教室は参加人数が増加しており、健康増進に取り組む積極的な高齢者の姿が伺える。
			4-5	地域サロン開催状況	秋田市社会福祉協議会		令和2年度 地域サロン数 ・38地区 ・202サロン	令和2年度はコロナ禍で、密になるような活動を避ける傾向にあり、前年度に比べ減少した。	
			4-5	高齢者生活支援体制整備事業において創設された新規サロン数	長寿福祉課		令和2年度 サロン数 12サロン ※平成30年度から集計を開始	令和2年度はコロナ禍で、密になるような活動を避ける傾向にあり、前年度に比べ減少した。	
4-6	高齢者がスポーツ活動に参加している割合	スポーツ振興課		令和2年度 高齢者向け健康運動教室 ・開催数 20回 ・参加人数延べ 1,000人	前年度に比べ参加者数が増加した。コロナ禍で他の体操教室などが実施されなくなり、市主催の教室に参加したのではないかと考えられる。				
5	あらゆる世代がお互いを認め合う地域と社会をつくり出す	年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合 57.2% 【問19】 普段生活する中で、年齢を重ねること(長寿)を肯定的に捉えていますか 	5-1	高齢者や障がい者との交流や福祉についての理解を授業に取り入れた学校の割合	教育委員会教育研究所		令和2年度 「障がい者や高齢者などとの交流活動」の実践を行った割合 ・小学校 51.2% ・中学校 21.7% 「福祉の現状を理解し、共感するための福祉体験活動」の実践を行った割合 ・小学校 73.2% ・中学校 30.4% ※千秋分校は数値から除く。	令和2年度はコロナ禍で、学校行事や交流活動が大きく制限されたため、全ての割合が減少した。	市民意識調査結果で、意識指標「年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合」が約6割となっており、5年毎の調査結果の推移を見守りながら、幼少期からの意識づくりや、行政だけでなく事業者や地域による取組、部局を超えた連携による施策など、様々なアプローチで意識の醸成を図る必要があると考える。 小中学校における高齢者との交流事業は高水準で推移していたが、コロナ禍の影響を受け、実績値が減少した。今後、新しい環境で同様の主旨の事業の継続が望まれる。 連携する事業者数は微増しており、今後も高齢者の身近な取組が増えることでエイジフレンドリーシティを実感できるのではないかと考える。 互いの違いを認め合う、高齢者にやさしい都市・地域社会づくりは、一朝一夕でできるものではないうえ、このたびの感染症対策により、これまでとは異なる手法への転換を求められることとなった。
			5-2	高齢者、高齢社会に配慮した取組を推進する民間事業者(エイジフレンドリーパートナー)数と取組件数	長寿福祉課		令和2年度末 エイジフレンドリーパートナー登録数 ・112事業者・団体 ・取組件数 699	新規登録数は6者であったが、登録数全体では微増。しかし、取組件数は着実に増加している。	

目標	基本目標	意識指標(主観的指標) / 令和2年度市民意識調査結果	番号	指標	照会先	エイジフレンドリー指標の推移	令和2年度実績値 (H28～R2)	現状	目標毎の課題等
6	高齢者の就業や市民参加の機会を増やします	ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合 61.8% 【問31】あなたが参加した地域活動について、やりがいを感じましたか 	6-1	日常的にボランティア活動を行っている高齢者の割合と実人数	長寿福祉課 子ども未来センター 秋田市社会福祉協議会	6-1 ボランティア活動を行っている高齢者の人数 	令和2年度 ・65歳以上介護支援ボランティア登録者数449人 ・65歳以上ファミリーサポートセンター登録者数162人 ・65歳以上子育てボランティア登録者数35人 ・65歳以上ボランティアセンター登録活動者数2,109人 合計 2,755人 ・割合 2,755/95,722=0.028 (2.9%) 令和2年度65歳以上高齢者数95,722人 ※高齢者数は民基本台帳年齢別人口集計表(R3.3.31現在)から引用	ボランティア活動を行っている高齢者の割合は増加、実人数は増加した。	市民意識調査結果で、意識指標「ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合」は6割を超えており、いきがいの創出として、多様な選択があることが望ましいと捉えている。 高齢者のボランティア数は、これまで横ばい傾向だったが、コロナ禍の影響を受け、地域における市民活動等とともに活動数等が減少しており、シルバー人材センター登録者数も減少している。 また、高齢者は人口減少時代の働き手として求められ、65歳以上も雇用する企業の割合が増加している。
			6-2	希望者全員が65歳を過ぎても働ける企業数と割合	秋田労働局 ※ホームページより確認	6-2 65歳を過ぎても働ける企業の割合 	令和2年 希望者全員が65歳を過ぎても働ける企業数と割合 1,186社(全企業数1,371社) 85.6%	全企業数は横ばいであったが、希望者全員が65歳を過ぎても働ける企業数および割合は増加している。 秋田労働局の発表によると、70歳以上まで働くことができる制度のある企業割合(45.9%)が、7年連続で全国1位となっている。	
			6-3	60歳以上のうちシルバー人材センターへ会員登録している実人数と割合	(一社) 秋田市シルバー人材センター	6-3 シルバー人材センター登録者数 	令和2年度 ・60歳以上人口 117,085人 ・会員登録数 914人 ・割合 0.8% ※令和2年度の60歳以上高齢者人口は、住民基本台帳年齢別人口集計表(R3.3.31現在)から引用	登録者数は減少したが、割合は横ばいである。 ※割合：914/117,085 = 0.8% (平成27年度から0.8%のまま)	
			6-4	地域における支え合いのしくみづくりの先導的取組件数	6-4 住民参加型のワークショップを実施した回数 	令和2年度 地域包括支援センターの各圏域において、住民参加型のワークショップを実施した回数 14回 ※市全域での集計は平成30年度から開始	地域包括支援センター各圏域におけるワークショップの開催回数は、大幅に減少した。令和2年度はコロナ禍でワークショップの実施が困難であったためと考えられる。 また、見守りネットワーク事業は、コロナ禍で訪問延べ回数が大幅に減少した。		
					6-4 見守りネットワーク事業・安心キット事業 	令和元年度 見守りネットワーク事業 ・対象世帯数 8,298世帯 (対象実人数15,319人) ・訪問延べ回数 50,333回 安心キット事業 ・設置世帯数 16,079世帯	安心キットの設置世帯数については、大幅に増加した。これまで冷蔵庫内の保管方法(容器版)のみであったが、冷蔵庫に貼り付けられるファイル版の保管方法が選択できるようになり、設置世帯数が増えたためと考えられる。		
6-5	地域における主体的な市民活動の取組件数	中央市民サービスセンター／地域福祉推進室／障がい福祉課 ※ホームページより確認	6-5 市民活動の取組件数 	令和2年度 地域づくり交付金交付件数41件 ※「地域配当分・地域の魅力普及分」30件および「市民公益活動・学生まちづくり」部門11件の二つの合計値を交付件数に記している。 ・秋田市地域保健・福祉活動推進事業補助金交付件数 6件 ・障がい者等自発的活動支援事業補助金交付件数 4件 合計 51件	秋田市地域保健・福祉活動推進事業における補助金交付件数は横ばいであったが、地域づくり交付金交付件数は減少した。 当指標を測る3つの交付金の交付件数：90件 ※以下内訳。カッコ内は前年比 ・地域づくり交付金交付件数：41件(-38件) ・秋田市地域保健・福祉活動推進事業補助金交付件数：6件(-1件) ・障がい者等自発的活動支援事業補助金交付件数：4件(±0)				

目標	基本目標	意識指標(主観的指標) / 令和2年度市民意識調査結果	番号	指標	照会先	エイジフレンドリー指標の推移	令和2年度実績値 (H28～R2)	現状	目標毎の課題等
7	高齢者の情報環境を整備します	地域において、福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合 26.7% 【問22】福祉に関するサービスや相談窓口について、必要な情報を入手しやすいと思いますか	7-1	「秋田市暮らしに役立つサービス」のサービス項目数・掲載事業社数	長寿福祉課		令和3年4月現在 秋田市暮らしに役立つサービス2021掲載件数 ・18サービス ・156社	サービス掲載事業者は年々増加している。	市民意識調査結果で、意識指標である「地域において、福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合」は3割を切っており、必要な情報が行き届いていない状況が伺える。 高齢者に有効な公的制度以外の情報を掲載した冊子は、掲載事業者数の増により内容がさらに充実したほか、コロナ禍で、地域包括支援センターへの相談件数や口コミが減少する中において、高齢者への情報提供にも役立つため、要望が増えていると思われる。 また、民生委員への相談件数が微減しており、地域における人と人との関わり方の変容が伺われる。 急速な情勢への対応や問題解決には、ITの活用が必須であることが顕在化したが、高齢者が対応困難であることも鮮明となり、このようなデジタル弱者の解消が求められる。 高齢者のITへの対応が急がれるところだが、まずはデジタルに親しめるような、スマホ教室などを開催できる民間との連携も必要と思われる。 また、加齢とともにデジタル対応が身体的に困難となる高齢者にも確実に届く情報提供も引き続き行っていく必要があると捉えている。
			7-2	広報あきたへの高齢者福祉サービス情報掲載件数	広報広聴課		令和2年度 115件 ※令和2年度中に発行した広報あきた(24回)への情報掲載件数	高齢者福祉サービスの情報掲載数は、大幅に減少した。	
			7-3	秋田市高齢者関連ホームページアクセス件数	アクセス解析ツール		令和2年度 高齢者福祉各トップページ(H31.4～R2.3) ・訪問回数 13,194回 高齢者のための暮らしのしおり ・訪問回数 1,008回	平成30年度中に秋田市ホームページをリニューアルしたことに伴い、平成29年度以前のデータとの比較はできない。長寿福祉課へのアクセス件数は、令和元年度に比べ、微増。	
			7-4	民生委員訪問回数・相談対応件数	地域福祉推進室		令和2年度 ・訪問回数 80,061回 ・相談・支援件数 16,855件 うち高齢者に関すること 10,478件	訪問回数、相談・支援回数ともに年々減少傾向にある。	
			7-5	地域包括支援センターでの相談件数	長寿福祉課		令和2年度 ・相談件数 7,831件	前年度に比べ、相談件数が減少している。 (令和元年度より、相談件数の集計方法を述べ件数から各月の実数(同じ対象者の重複相談を除いた件数)の合計に変更したことに伴い、平成30年度以前のデータとの比較はできない)	



目標	基本目標	意識指標(主観的指標) / 令和2年度市民意識調査結果	番号	指標	照会先	エイジフレンドリー指標の推移	令和2年度実績値 (H28～R2)	現状	目標毎の課題等
8	保健、福祉、医療サービスを充実させ、地域社会の支援体制を整えます	<p>医療、福祉サービスの充実に満足している高齢者の割合 46.1%</p> <p>【問24】 普段生活する中で、医療および介護・福祉サービスについて充実していると思いますか</p>	8-1	秋田市の健康寿命と平均寿命	保健総務課	<p>8-1 秋田市の健康寿命</p>	<p>健康寿命</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性 78.98年 ・女性 83.43年 <p>平均寿命</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性 80.47年 ・女性 86.94年 	※平成29年数値 (秋田県算出)	<p>市民意識調査結果では、意識指標の「医療、福祉サービスの充実に満足している高齢者の割合」について、5割近い人が「普段生活する中で、医療および介護・福祉サービスについて充実している」と答えている。</p> <p>保健、福祉、医療については法に基づく支援、サービスも多く、継続して提供する体制が整っている。その成果として、健康寿命も延びている。</p> <p>本人だけの支援にとどまらず、家族など支える側への支援体制の整備も大切であり、特に認知症サポーター養成はエイジフレンドリーシティ意識の醸成にもつながると思われる重要と考えるが、コロナ禍の影響を受け、講座数、受講者数ともに減少した。</p> <p>民間事業者のサービスも充実してきており、必要に応じた利用ができるよう、さらなる周知を図る必要がある。</p>
			8-2	65歳以上のうち要介護認定を受けている人の割合	介護保険課	<p>8-2 65歳以上のうち要介護認定を受けている割合</p>	<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上高齢者数 96,699人 ・要介護認定者数 19,793人 ・割合 20.5% <p>※高齢者数は令和元年度介護保険事業状況報告(年報)から引用</p>	65歳以上の要介護(要支援)認定者の割合は、前年度に比べ、微増。	
			8-3	認知症サポーター養成講座開催回数、受講者数	長寿福祉課	<p>8-3 認知症サポーター養成講座</p>	<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座開催回数 58回 ・受講者数 1,100人 	令和2年度はコロナ禍で、当初計画していた講座が取り消されるなど、受講を控える傾向があり、前年度に比べ、講座開催回数および受講者数ともに大きく減少した。	
			8-4	高齢者の権利擁護対応件数	秋田家庭裁判所	<p>8-4 高齢者の権利擁護成年後見制度の利用者数(秋田県内)</p>	<p>令和2年度</p> <p>秋田県内成年後見制度の利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見 961件 ・保佐 143件 ・補助 40件 	秋田県内における成年後見制度の利用者数は年々増加しており、後見人市長申立件数、地域福祉権利擁護事業の利用者数も大幅に増加した。	
長寿福祉課	<p>8-4 高齢者の権利擁護対応件数</p>	<p>令和2年度</p> <p>成年後見制度利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後見人市長申立件数 15件 <p>地域福祉権利擁護事業の利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約件数 32件 							